

2010年度採択 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名：立命館大学・産業社会学部・教授 氏名：東 自由里
研究課題	Who is the socially responsible citizen? : Cases from the Asia-Pacific Rim

・「成果発信」の目的・意義の概要

今次の国際的研究成果発信の目的・意義について、概要を記入してください。

欧州では、既に欧州連合などの存在によって国境をこえて市民教育を実施している。だがアジア・パシフィック地域においては異なった政治体制と歴史的背景に縛られているため、「市民教育」についての国際的な共同研究はそれほど多くない。日本においても「道德教育」、「公民教育」などが促進されてきたが、未だ「市民」という概念が「国民」という枠組みの中で捉えられることが多い。本研究は、マカオ、台湾、ハワイ、日本、香港、韓国などの事例をもとに市民が社会を築く、市民性を育むためには、どのようなカリキュラム、テキスト、教育政策が実施されているかを分析することにある。政治的、文化的に異なるそれぞれの社会の事例調査結果をもとに、最終的には「社会参加と責任ある行動がとれる能力育成」はどのようにして育むべきかを研究し、新たな教育政策を提言していくことを目的とする。

英文著書の前段階として、教育者、研究者、政策立案者など1000人以上の参加者があった East West Center 50周年記念国際会議(2010年7月ホノルル)で Preparing Participatory & Social-Justice Oriented Citizens: Perspectives from Asia-Pacific Societies 部門パネリストとして研究発表を行った。本国際会議は大規模であるために、本共同研究のパネリストとして発表することは、今後の研究ネットワーク構築のためには大いに重要であると考えられる。

・「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今次の国際的研究成果発信で得られた成果と今後の展開計画について、概要を記入してください。

East West Center 50周年記念国際会議(2010年7月)での発表を終え、分担研究者8名と共同で著書 *Who is the Socially Responsible Citizen?: Cases from the Asia-Pacific Rim Region* (仮題)を刊行する準備に入っている。現在、編集者および分担執筆者の原稿を批評しあい、調整に入っている。本研究の中心的役割を担っているのは、ミネソタ大学教育学部、John Cogan 名誉教授とシャミナード大学、教育学部、学部長(2011年5月まで)の David Grossman 博士(現在、ハワイ大学内 East West Center 上級研究員)である。この両氏を中心に、本研究の共同研究者プロジェクトチームの研究者とは、今後も継続的に研究を行う予定である。著書の分担執筆者は次の通りである: Yan Wing Leung, (香港教育学院大学、準教授、教育政策学科副学科長、市民教育センター代表)、Timothy Wai Wayuen (香港教育学院大学、教育学部、専任講師)、Yong-Ling Moon (国立ソウル大学、教育学部、教育心理専門 教授、国立教育院・道德教育局、所長)、Gay Garland Reed (ハワイ大学 教育学部 多文化教育専門、教授)、Teresa Sou-Kuan Vong (マカオ大学 教育学部準教授、教育政策研究所所長)、Shiowlan Doong (国立台湾師範大学 教育学部、市民教育研究所所長、準教授)。

以上